

「草加市の明日の保育を考える市長懇談会」資料

2009年10月23日

草加市長 木下 博信 様

草加市保育園父母会連合会 会長 高山 幸一郎

木下市長におかれましては、日頃より草加市の子育て環境向上のためにご尽力をいただき、誠にありがとうございます。またこのたびは、草加市のよりよい保育を考えるための市長懇談会を開催していただき、誠にありがとうございます。

今年度におきましては、6月にあずま保育園の新園舎への移転が完了し、新たに1歳児クラスが新設されました。後に続く園舎建て替えにも私たち市民は大いに期待しているところです。

今年度も父母連は、約1600の保育園世帯にアンケートを実施し、よりよい保育を望む多くの保護者の声をあつめています。また毎月の各園父母会による代表者会にて、様々な要望や意見を吸い上げてきました。それらを下記にまとめ、市長懇談会の資料とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

記

<0歳児保育のあり方について>

①家庭保育室の更なる充実とともに、さかえ、あさひ、にしまちの公立園3園における0歳児保育の継続実施をお願いします。

*これまで、移行計画の提示は私たち草加市保育園父母連にのみ「素案」の形で提示されたものにとどまっており、市民レベルでの検討が不十分であると思われます。また市のホームページには該当3保育園の在園児数の欄に「平成22年度から0歳児保育を家庭保育室等に移行する予定です」とあるのみで、未だ計画の詳細等が広く公開されておりません。このような市民への説明が不十分なままでの移行は止めてください。

*今夏の衆議院議員選挙にて政権交代が実現し、国レベルでの政策が大きく変化しつつあります。その中で最重要課題として挙げられているのが「子育て支援」、とりわけ保育所待機児童の問題です。新しく就任した少子化問題担当大臣は「子どもを産み育てることに夢を持てる社会にしたい」「保育所等のインフラ整備が必要」とたびたび発言しています。ふりかえって草加市においては、待機児童数が10月1日現在で407人、とりわけ0歳児が115人、1歳児が99人、2歳児が111人と0～2歳児の待機児童数が約80%を占めている状況です。私たち市民はこのような状況ではとても「子どもを産み育てることに夢を持てる」ことができません。待機児解消やより多くの市民のニーズに応えるために、家庭保育室と公立園での0歳児保育を両立・充実させてください。

*0歳児保育の移行については家庭保育室や公立園で実際に働く保育職員と市側の連携が不可欠なものと考えますが、これまで円滑に移行するために市としてどのような現場や現場同士の情報交換を行ってきたのでしょうか？お聞かせください。

②2010(平成 22)年度～2014(平成 26)年度に、各公立保育園周辺に1～3家庭保育室、計24室が新設される計画になっています。今後も安全で質の高い家庭保育室の設置をお願いします。またそのために必要となる家庭保育室の設置を実現するための草加市としての基準を示してください。

③保育者としての資質向上や相互の情報交換のために市側からは園長・栄養士・看護師などによる巡回相談や相互の保育研修などの機会を保障していくと説明を受けてきましたが、次年度実施にあたり、その具体的な計画についてお聞かせください。

④サテライト方式で公立園の周囲に家庭保育室を設置していく計画では、家庭保育室の公立園行事

への参加も行うとの説明でしたが、その具体的な方法や現段階での計画をお聞かせください。

- ⑤家庭保育室における育成保育の実施について、育成担当の保育士の家庭保育室への加配についての見解をお聞かせください。
- ⑥0歳児保育における時間外保育・延長保育・土曜保育のニーズが保護者から寄せられています。市としての方針をお聞かせください。合わせて、家庭保育室に寄せられているこれらの新たなニーズに応えるために、市として家庭保育室への資金的な補助をどのように計画しているのか、その方針をお聞かせください。
- ⑦現在の家庭保育室への移行計画進捗状況や今後の見通しについてお聞かせください。

<待機児童対策について>

- ①前述の通り、現在草加市では待機児童数が407人となっており、私たち父母連は待機児童対策が喫緊の課題であると認識しています。これまで草加市として行ってきた待機児童対策についてお聞かせください。
- ②父母連としては、現在の待機児童数の劇的な増加は定員の弾力化での解消は難しく、空き施設を利用した緊急対策が必要と認識しています。その候補として6月に移転した旧あずま保育園の園舎を利用することは費用対効果の面で最も有効と考えます。ぜひ旧あずま園舎の有効利用をお願いいたします。
- ③国レベルでの子育て支援政策にもあるように、待機児童対策としてのインフラ整備は重要課題と考えます。保育園の新設による待機児童解消をぜひお願いします。
- ④公立園での0歳児保育の廃止・家庭保育室への移行に伴い、待機児の解消が具体的にどの程度見込まれるのか、市としての試算を開示してください。

<その他 草加市の保育施策や保育環境について>

- ①各保育園の園舎については、父母から「老朽化による耐震への不安」が取りざたされています。早急に各園舎の耐震診断をしてください。その上で耐震強度が足りない園については早急に耐震工事を実施してください。
- ②待機児童の多くは認可外保育施設を利用しています。同じ草加市の「保育に欠ける」子どもであり、これらの子どもたちの健康や安全について草加市が同等の援助をすべきことと考えます。認可外保育施設利用の児童に草加市の保育園が行っていると同様の医科歯科検診を市が行って下さい。また、待機児童であって認可外保育室に入所している場合は、「草加市保育料の徴収に関する規則」を適用し、第二子減免措置や草加市の保育料基準を上回る保護者負担については草加市が補填をしてください。
- ③草加市による「保育料の第二子減免措置」に心より深く感謝申し上げます。しかしアンケートの結果、依然として、草加市の保育料を高いと感じている家庭が多く、要望の第1位として「保育料の引き下げ」を望む声が多いのが現状です。またトータルの保護者負担は県内の自治体と比較してもまだまだ高額です。
 - ア. 国が定める徴収基準額に相当する D18・19階層の保育料引き下げを検討してください。
 - イ. とりわけ「逆進性」が大きい D階層の保育料の引き下げを検討してください。
 - ウ. 職員配置や保育条件の向上を伴わないままでの延長保育料の徴収は中止してください。
 - エ. 保育料の支払が困難な世帯には「草加市保育料の減免実施基準」を積極的に適用してください。
- ④保育環境の安全と充実のために、次の項目の実現をお願いします。
 - ア. 安全かつ心身ともに健やかな育ちを守るためにも、定員を大幅に超えた定員の弾力化は行わないでください。
 - イ. 草加市の子どもたちが利用している認可外保育施設の実態を把握し、必要に応じて、監督、指導、あるいは現場スタッフへの研修を行い、認可外保育施設等を利用している子どもたち

の安全で良質な保育が提供できるようにしてください。

- ⑤「いきいき子育て応援プランそうか（次世代育成支援行動計画）」では、延長保育事業に関する21年度までの目標として“延長保育の全園実施”が掲げられていますが、20年度10月現在の延長保育実施園は公立11園、私立3園にとどまっており、目標値と大きな隔たりがあります。計画通り、延長保育の全園実施をお願いします。また、延長保育事業の進捗状況及び今後の方針について教えてください。
- ⑥2008年度4月よりスタートしました市の「送迎保育」は、延長保育未実施園の世帯や時期によって就業時間が変動する世帯にとっては、有効な施策として機能しています。今後も積極的な活用を促すための周知をお願いします。
- ⑦指定園方式等での実施も含め、日曜日の保育の実施（7時～19時）の検討をお願いします。
- ⑧育成保育（障がい児保育）について
全園を対象に育成保育を実施してくださっていることに感謝しております。
- ア. 障がいや慢性疾患を持つ子どもは、療育や訓練、定期的な受診・受療など、保護者によらなければならないケアが必要であり、保護者の就労は事実上不可能な実態があります。入園申込にあたっては「草加市保育の実施に関する条例」の保育の実施基準（7）の適用、もしくは、就労予定や内職などでの特別枠での入園を検討してください。
- イ. 育成保育対象児でも、時間外保育・延長保育・土曜保育が可能となるよう、必要な人的配置をしてください。
- ウ. 育成保育対象児の入園及び更新の手続きに、是非保護者の聞きとりの機会を設けてください。また、入園及び更新の手続きがわかりにくいと、手続きの流れを文書で提示してください。
- エ. 22年度オープン予定の「子育て支援センター」へは大きな期待が寄せられています。育成保育対象児が利用しやすいよう、土曜日の療育相談や、言語療法・理学療法・作業療法等の継続的な療育の実施をお願いします。
- オ. 近隣5市で出資している障がい児療育施設「中川の郷療育センター」は、交通の便が良くない地域にあり、障がいのある子どもを連れて通所することが難しいという声が寄せられています。草加市内もしくは最寄駅からの直通バスを運行する等の利便性の向上をお願いします。
- ⑨安定した質の高い保育園職員の人材確保のためにも保育士・看護師・栄養士・調理師・技能員の採用はぜひ正規職員をお願いします。また現在、臨時職員の時給は950円と、命を育み守る職業に見合う賃金とは言えません。賃金の低さが保育士や栄養士の確保を難しくしている大きな要因と考えます。ぜひ賃金増を含めた臨時職員の待遇改善をお願いします。
- ⑩草加市のすぐれた自園直営方式は草加の宝物です。今後もぜひ自園直営方式の給食を続けてください。
- ⑪3才児以上の子どもにあえて主食を提供しない「不完全給食」を改めて、主食を提供する「完全給食」の実施を検討してください。

～以上～